

令和5年度の学校評価(目標)

<p>本年度の 重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的・対話的で深い学びの視点とともにビジネスの視点から授業改善を積極的に図る。 2 学校いじめ防止基本方針に基づき、全てのいじめの根絶を図るとともに、情報モラルを向上させる。 3 適切な情報提供を行い、確かな進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。 4 外部との連携を充実させ、学校全体でのE S D活動を推進する。 5 「県立学校における働き方改革ガイドライン」および「部活動指導ガイドライン」に基づき、働き方改革の推進を図る。 6 保護者・地域に対して、SNSなどを活用し積極的に本校の取組を発信する。 7 生命維持を最優先とした安全・安心な学校運営を心掛ける。 8 一人一台タブレットの積極的な活用を効果的に実施する。 		
<p>項目(担当)</p>	<p>重点目標</p>	<p>具体的方策</p>	<p>留意事項</p>
<p>生徒指導 (生徒指導課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己指導能力の育成。各分掌や学年との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ指導では、オフィスや進学・就職試験を意識した着こなしをするために、ルールの意味を考えさせ、自分で正すための声掛けを実施する。 ・情報モラルの向上を目指して、SNS活用教室やアンケート、HR指導・風紀委員活動など様々な場面において自分事として捉えられる取組を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事の善悪を生徒が自ら考えて、正しい選択をすることができるように、風紀委員や正副室長を中心に生徒主体の活動を意識させる。 ・分掌や学年と情報共有し、連携を密にしていくことで、早期発見、早期対応を目指す。
<p>(2年学年会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション能力の向上を図り、豊かな人間性を育む。 ・リーダーシップの育成と学年全体の団結を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学、HR、学年集会を通して、相手を思いやる心、自分の考えを伝える力を高める。 ・学校行事を通してリーダーシップと責任感を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を通して、学年全体の繋がりを意識し、学年の団結を深める。 ・室長会やリーダー会を開催し、リーダーとしての意識を高める。 ・多くの教員で情報を共有できるように担任会や学年会を有効に活用する。
<p>(1年学年会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を確立し、検定取得に対しても意欲的に取り組む。 ・部活動と学業を両立する。 ・生徒指導課と連携し、遅刻・身だしなみ指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任会や学年会をとおして情報を共有する。 ・教科担任や部活動顧問と生徒情報を共有する。 ・生徒指導課と連絡を密にし、落ち着いた学校生活を送れるよう努める。 ・進路指導課と連携し、将来を見据えた学校生活を送れるようにする。
<p>学習指導 (教務課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを意識した授業展開の充実 ・授業改善、授業規律の確立 ・授業研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースメソッドやロイロノートを活用した主体的・対話的な授業を充実させる。 ・全職員及び全生徒のICT機器を活用した授業スタイルの変革を進める。 ・地方創生やSDGsの視点を持った授業を展開する。 ・担当科目の枠を越えて、期間中1回は授業を参観し合い、多様な指導方法に触れる機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間を中心にケースメソッドの授業を展開し、各教科から実施報告書を提出してもらい、全職員で共有する。 ・ICT機器を活用した授業を今後も継続する。 ・教科主任会において、地方創生やSDGsに関する授業の実施を推進する。教科横断的に多面的に理解をさせる。 ・授業を参観し合うことで、自身の指導技術の向上と研鑽に努めることに主眼を置く。また教科の特性を知る機会としても活用する。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
学習指導 (経理科)	<ul style="list-style-type: none"> 対話的で深い学びを実現する授業実践 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用して効果的に理解を深める授業展開を心掛けるとともに、内容の意味を深く考え、理論的に説明する力を身に付けるよう授業改善を図る。 自ら主体的に粘り強く学習に向かう力を養い、ビジネスの視点から広い視野で会計思考力を身に付けられるよう授業展開を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の定着を図り、生徒自ら粘り強く学習に取り組みせ、深く考えて理解につなげられるよう、より効果的な授業を心掛ける。 外部講師を活用するとともに、広い視野を持ち、グループで様々な視点から会計情報を的確に捉え、経営判断ができるよう工夫する。
(事務科)	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師招聘や校外学習の充実での実践的授業の充実 ケースメソッド教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師講演や校外学習を通じて生きたビジネスに触れる機会を積極的に増やす。 ケースメソッドを用いた授業を多くの科目で充実させ、多面的・多角的にビジネス上の課題を解決させる能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> マナー関係だけではなく、多方面から外部講師の授業を充実させる。また、メッセナゴヤなど企業の展示会に参加し、地域ビジネス理解を促進する。 ケースメソッドは複数回実施し、幅広い考え方を身に付けさせる。
(情報処理科)	<ul style="list-style-type: none"> 高性能PCやドローンなどを積極的に活用。最先端のIT技術を身近に感じられる実践的授業の充実。 外部講師による授業や講演会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器や、最先端のIT技術を積極的に取り入れ、生徒一人ひとりが自らの探究心を充たせる主体的・対話的な授業を実施する。 外部講師による授業や講演会を積極的に取り入れ、より実践的で専門的な知識を得る機会を増やし、キャリアデザインに役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> プログラミング言語やアルゴリズムなどの基礎的知識や技術を定着させるとともに、知識の発展として最先端の情報機器に触れ、生徒が積極的かつ自ら探究できる授業を心がける。 外部講師を利用することで上級資格への動機づけと意欲向上を図るとともに、確かなスキルとコミュニケーション能力をもった人材の育成に努める。
(国際ビジネス科)	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目「地域協働ビジネス実践」の実施、改善 企業と連携し、コミュニケーション能力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目を実施、改善し、担当教員と情報共有する。 企業と連携を取り、コミュニケーション能力向上に向けた実践的な取り組みを検討する。 プレゼンテーションを数多く実施し、主体的に学習に取り組む姿勢を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 科で情報を共有し、目標に沿った授業展開になっているか検討する。 企業との協働と、授業の実践をバランスよく取り組むよう努める。 外部講師の活用や科目を横断した授業を実施するよう努める。
(図書課)	<ul style="list-style-type: none"> 図書館の利用促進と環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のみならず職員に対しても図書館の利用を積極的に働きかけるとともに、魅力ある図書館づくりを心掛ける。 他校や公共図書館での取り組みを参考にして、良いアイデアを取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用しやすい図書館を目指し、更なる広報活動に努める。 図書館での学習活動・調べ学習・発表会等の活用を促す。 図書委員を積極的に活用し、校内ビブリオバトルを継続するとともに、生徒からPOP作品を募集するなどして、図書館の利用促進に努める。
進路指導 (進路指導課)	<ul style="list-style-type: none"> 変化する社会に対して生徒が柔軟に対応できるよう、進路実現に向けたキャリア教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 最新の企業・学校の情報を提供し、生徒自身が納得する進路選択へと導く。 1 生徒が自己の特性等と将来の進路との関わりから、「夢のマッチングフェア」、「卒業生による企業説明会」、「社会人講話」等を活用していく。 2 民間就職斡旋業者の活用方法を検討する。 3 充実した高校生活を送ることへの延長として、総合型入試の活用をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を利用しての情報の収集、資料の活用を促す。 進学希望者に、オープンキャンパスへの積極的な参加を促す。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
進路指導 (3年学年会)	<ul style="list-style-type: none"> 充実した高校生活を送り、自身の能力と適正の自己理解をふまえた上で、先を見据えた進路希望の実現を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が自らの進路を主体的に考え、先を予測して行動し、よりよい選択ができるように、朝学やHR、または進路講話を活用して、適切な情報提供及び助言や指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談や進路指導を通して、生徒自身の能力と特性を理解させ、自らの力で自分の進路を決定し実現に向けて努力させることができた。 2次求人においても進路指導課と連絡を密にし、希望者全員が内定するに至った。進学においては、一般入試を受験する生徒も最後まで努力し、概ね良好な結果を得ることができた。
生徒会活動 (生徒会課)	<ul style="list-style-type: none"> 他分掌や学年と連携して生徒会行事を活性化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 愛商祭はじめ生徒会行事について、学年の希望、他分掌の意向を取り入れながら、より生徒が充実感を味わえる学校行事の企画、実施に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度の踏襲でなく、学年との連携を密にして、生徒の満足度を高めることを念頭に置いて企画を進める。
教育相談 (保健課)	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラー来校日を活用する。 関係の職員と情報の共有を図りながら適切な対応に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の教員で抱えることなく、学年団あるいは関係職員と連携を図り、チームで取り組むことができるように努める。
P T A 行事 (総務課)	<ul style="list-style-type: none"> P T A 行事に関する理解や協力を保護者や教職員からさらに得られるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> P T A 行事の内容や意義を教職員に周知し、理解や協力を得る。 学年会と連携を図り、保護者との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> きずなネットやホームページを活用し、行事のPRを図る。
情報管理 (教育情報課)	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信技術(ICT)活用に関する環境整備及び情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒用タブレットを積極的に活用するための情報提供 学校のネットワーク環境について見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の取扱いに関する指導が遅れることがないように留意する。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が生き生きと楽しく活動できる学校づくりができたか。 2 教職員がやりがいを持てる学校づくりができたか。 3 保護者・地域に対して開かれた学校づくりができたか。 4 在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに、教職員のメンタルヘルスの保持ができたか。 		